

東海大學日本語言文化學系校外實習心得報告 113 學年 1 學期

2025年1月12日

學號/姓名	S101502〇〇
實習地點	定山溪ホテル鹿の湯
實習期間	2024年7月9日 ~ 2025年1月12日
實習心得内容	<p>私にとって、ホテル鹿の湯でのインターンシップは運命的なものだと思います。最初は、海外でインターンシップをすることはもちろん、1年間行くことなどまったく考えていませんでした。今回のインターンシップに参加したいと思った理由は卒業する前にサービス業の仕事を体験したかったからです。また、将来が日本に働くことも考えていますから、今回のチャンスを把握しました。</p> <p>多くの方は台湾でインターンシップをすればいいのに、なぜ日本に行く必要があるのかと考えるかもしれません。これは、サービス業を営む上で、お客様の考えを理解することや礼儀は非常に重要なことだと思うからです。日本はこれらの面でもプロフェッショナルで、常にお客様を思いやり、厳格な礼儀の要件も持っています。時々細かいことを気づかない私にとっては挑戦ですが、学ぶ機会でもあるので、最初の仕事の経験が日本で積まれるのを決心しました。</p> <p>最初仕事を働き始める時多少緊張しています。自分は内向的な性格で日本語も流暢ではないため、ある時期に自分に自信が持てず、日本の職場で噂されている階層制にも恐怖を感じていましたから、日本語を話す勇気がありません。幸いことは出会った先輩たちはとても親切で、分からないことがあれば、彼らに助けを求めることができます。それだけでなく、彼らは自分の経験も共有してくれるので、私たちはそこから学び、自分のやりやすい方法を見つけることができます。</p> <p>また、自分の強みも発見できました。例えば、盛付の配置、お酒の作り方やデシャップの配膳など暗記と実践が必要なこれらのこと、私は実際に1、2回やってみれば、大体のやり方は分かると思います。この能力のおかげで、仕事の内容にすぐに適応できるだけでなく、先輩から割り当てられたことを完了するために最も都合のよい方法を調整して使用するための時間を大幅に節約でき、先輩に信頼感と安心感を与えます。</p> <p>毎日仕事の繰り返しで少し疲れを感じますが、時にはお客様からの励ましの言葉を聞くと元気が出て、最高の状態でお客様を楽しませます。また、外国のお客様と接することもあるので、英語や中国語で対応したり、英語や中国語が分からない先輩にも、お客様とのコミュニケーションがスムーズに取れるようサポートしていきます。</p> <p>しかし、仕事で色々な場面に遭遇しました。一番印象に残っているのは、</p>

お客さんにビールを作るのを忘れて怒らせてしまったことです。結局、問題は無事に解決しましたが、私はとてもパニックになり、無力感を覚えました。また私は誤って先輩を巻き込んでしまいましたから、その後先輩に謝り、そして助けてくれたことに感謝しました。

そのことにきっかけに、私はその後の仕事において、自分が担当した注文が本当に完了したかどうかを何度も確認するようになりました。そして、同じような問題を避けるために、記憶力を高めるだけでなく、その場での反応を訓練してより多くの対処方法を身につけます。

この間、私は盛付、バイキング(鹿の間)、業務、レストラン(ユック)で働きました。今まで見たことのない多くのものを見ましたし、従業員の苦労も深く感じました。

それだけでなく、それだけでなく、この半年間で出会った同僚や先輩たちにもとても感謝しています。彼らは時間をかけて、わからないことを丁寧に教えてくれました。それから、私に自信を与え、すべての顧客に元気よく対応できるように励ましの言葉をかけてくれました。

このような決断をして本当に良かったし、この1年間のインターンシップ全体を充実させるために、ホテルに戻ったら残りの6か月間で、新しい部署でより多くのことを学び、より多くの人と知り合えることを願っています。

實習活動照片
(4~6張)



